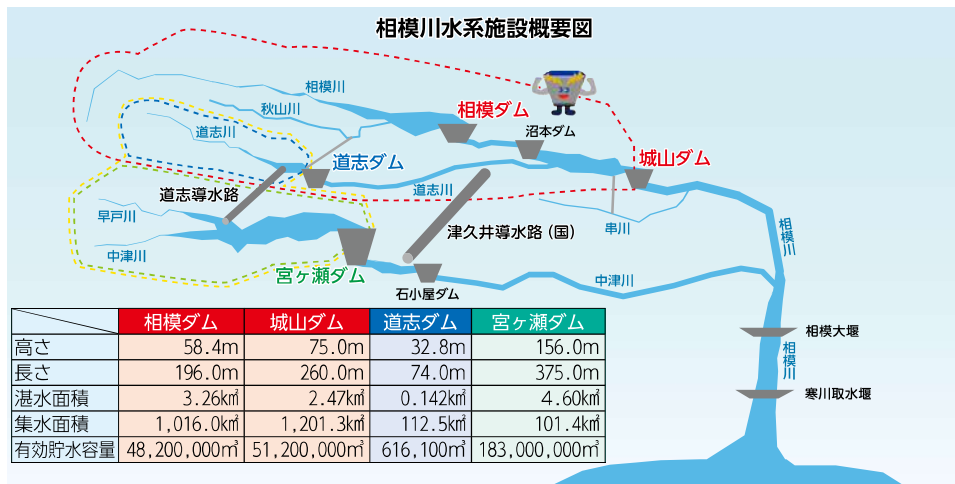


相模ダムの管理等

相模川水系総合運用

相模川水系では水資源の有効利用を目的に、2本の導水路により相模ダム・城山ダム（神奈川県）と宮ヶ瀬ダム（国）の3つのダムを連携し、それぞれの特性を活用した水の総合運用を行っています。



相模ダム・城山ダムの集水面積は、宮ヶ瀬ダムの約12倍と広く、流入量が多いことから水を貯めやすい反面、水を貯める容量は宮ヶ瀬ダムの約半分しかありません。相模ダム・城山ダムに貯めきれない水はダム下流に放流されてしまいます。この水を利用できるように導水路で宮ヶ瀬ダムと繋がっており、相模ダム、城山ダム、宮ヶ瀬ダムが連携して効率の良い水運用を行っています。

渇水に強い神奈川

神奈川県では、平成13年の宮ヶ瀬ダム完成以降、相模川水系における総合運用や、相模川水系と酒匂川水系との2水系間の連携などによるきめ細やかな水運用を行うことで、取水制限は実施していません。

宮ヶ瀬ダム完成



出展：関東地方整備局ホームページ
<http://www.ktr.mlit.go.jp/sagami/sagami00118.html>

【相模川・酒匂川水系と利根川水系の取水制限実施状況】

年	相模川・酒匂川水系	利根川水系 [※]
平成13年	—	18日間
平成24年	—	23日間
平成25年	—	57日間
平成28年	—	79日間
計	実績無し	4回（177日間）

※利根川水系のデータについては国土交通省関東地方整備局発表資料より抜粋

相模ダムの管理

施設・設備の維持・管理

ダム施設は、ダムの堤体等の土木構造物、放流設備や係船設備等の機械設備、電源設備や通信設備等の電気通信設備、貯水池周辺斜面、観測・計測設備、その他の管理設備から構成されています。複数の設備等が一体となって、ダム施設の機能を発揮しています。

相模ダムは完成から70年を迎えますが、ダム施設の点検基準を定め、日々の点検結果をもとに、異常の有無を確認し、適切に修繕することで、運用することができます。貯水池や堤体付近の崩落の恐れがある湖岸や斜面に対しては、護岸工事等を実施し、湖の適切な管理に努めています。



仮締切を用いたゲートの補修状況



相模貯水池護岸工事



相模ダム管理所情報管理室



放流中の相模ダム

出水・洪水対応

相模ダムをはじめ城山ダム等の相模川水系にある企業庁管理ダムは、平常時のダム運用を相模川水系ダム管理事務所で一括して行っていますが、降雨等によりダムゲートからの放流が予測される場合、相模ダムは、ダムに隣接した相模ダム管理所主体のダム運用に移行し、ゲート放流操作が行われます。

ゲート放流にあたっては、関係機関に放流の事前連絡をすることや、ダム上流地域の降雨等の情報を把握し、放流量を決定するなど、慎重な対応が求められます。放流開始の際には回転灯等の点灯、サイレンの吹鳴、スピーカー放送を実施し、地域の皆様方の安全確保や、釣りやキャンプなどレジャーを楽しまれる方々の事故防止に努めています。

職員は、梅雨・台風シーズンなどの出水期を迎えるにあたり、ゲート模擬操作演習、情報伝達・警報等の演習及び設備機器の操作演習を関係機関と連携して実施し、放流時の防災体制に万全を期しています。